

金子耕式の **その14** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



■基準を失った家庭

なぜ今の日本では家庭が崩壊の危機に直面しているのか、今日は、その理由について考えてみましょう。

少し前に、苫小牧で子育ての講演会をしたとき、巻き尺を手にして、会場の皆さんにちよつとしたゲームに参加していただきました。

「みなさん、両手を前に出して1メートルがどれくらい長さか示してください。今からこの巻き尺で計らせていただきますからね」

さて、計り始めると最初の人は86センチ、次の人は110センチという具合で、びったり1メートルの人にたどり着いたのは13人目でした。そこで私は言いました。

「今長さを計った皆さんに、住宅の設計図面をお渡ししましょう。13人の方が全員協力して、一軒の家を建ててください。ただし、この巻き尺ではなく、先程のように、一人一人が自分の物差しを使って材木を切り刻んで建てていただきたいんです。」

さあ、どうでしょうか。まともな家が出来るとはでしょうか。きっと形はガタガタで隙間だらけでしょう。

今の社会や家庭の混乱の原因もここにありませう。つまり一定の規範や倫理観を失うと、ガタガタになってしまうのです。それでは、混乱を避けるために何が何でも一定の基準があればいいのでしょうか。例えば独裁国家には強力な基準があります。混乱は起こりにくいですが、国民は幸せではありません。

ん。家庭のあり方も、同じです。一定の基準がなければ、混乱してしまいがちですが、それでは、独裁者のような父親がいればいいのでしょうか。

このことについては、明日もまたお話ししたいと思います。

■家庭を治める基準

民主主義的な世の中では、一人一人の自由や権利や個性が大切にされます。

それは、とても素晴らしいことだと思えます。ところが、子育てのことを考える時、自由や権利の間違った捉え方が、大きな問題を引き起こしています。つまり、子どもにも大人と同等の自由と権利を与えて、何でも思いどおりにさせてやるべきだ、という放任主義的な子育ての考え方が、親と子を混乱に陥れているのです。

もしも、まだ幼い子どもが、従うべき親の言葉を無視して自分自身の考えを基準にして行動しようとしたら、一体どうなるのでしょうか。とても未熟で不正確な自分の物差しを基準にして生きていこうとしたら、うまくいくわけがないでしょう。

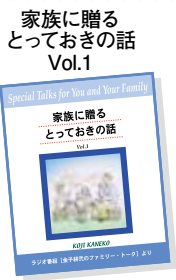
少なくとも親達は、長い人生の中で、色々なことを経験してきたわけですから、子どもたちと比べたらかなり精度の高い物差しを持っています。

私は、今の社会や家庭の混乱は、一定の規範や倫理観を失ったことから生じて来たとお話ししましたが、今の子どもたちは、親という大切な基準を失いかけています。人生の大先輩である

親がその権威を失って、子どもたちから軽んじられたら、子育てはうまくいかず、家庭は混乱してしまいます。親は責任を果たさなければいけません。ただし、ここで大切なことは、独裁者のように権威を押し付けるのではなく、子どもとよく関わり、子どもの個性を見抜き、優しく励まし、時には思い切った叱ることの出来る良きリーダーになることなのです。これが今の家庭にぜひとも必要な基準だと私は思います。

最後に、聖書には子どもたちに対するとてもはつきりとしたみことばがあります。

「子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」エペソ6章1節



四六版変形上製本 151P ●定価 1,575 円



四六版変形上製本 148P ●定価 1,575 円



四六版変形上製本 149P ●定価 1,575 円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフで元アナウンサーの金子耕氏が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。